

教育目標		たくましく心豊かな子どもの育成					
重点目標		・「主体性」をキーワードに保育実践を行い、「意欲」「豊かな表現」「思いやり」「共同」を育む教育を推進する					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
確かな学力の向上	主体性の尊重	○主体的に行動し、遊び込む子どもを育成する保育を実践する。 ・短期案の話や子どもの話を通して、園庭の環境について意見を出し合い、必要な環境の構成に取り組む。 ・保育室の環境の見合いを行い、遊び込みにつながる環境構成について話し合い、環境の再構成を行う。 ・他園の研究会に参加し、子どもの主体性を育む保育を学ぶ。 ・隣接する小学校の校内研究会等に参加し、互いの教育について学び合い、教師間の連携を図る。	・保護者アンケートの中で「子どもは、やりたいことを見つけ、意欲的に遊ぶようとしている」等の回答の結果が90%以上になる。 ・短期案の話し合い、子どもの話を隔週に1回ずつ行うと共に園庭の環境について話し合い、その後環境の構成を行う。 ・月に一回、保育室の環境の見合いを行い、その後環境の再構成を行う。 ・他園の研究会に年間5回以上参加する。 ・近隣の小・中学校の校内研究会に4回以上参加し、小学校教育への理解を深める。	B ・保護者アンケートの結果、100%の肯定的な回答を得て、目標を達成することができた。 ・短期案の話し合い、子どもの話を隔週に1回ずつ行い、その後すぐに環境の構成を行うことができた。 ・月に一回の保育室の環境の見合いは、ほぼ、毎月予定通りに行うことができたが、月によっては、時間が取りにくい日もあった。 ・他園の研究会へは、年間5回以上参加することができ、それぞれの職員の資質の向上につながった。 ・近隣の小・中学校の校内研究会に、4回以上参加することができた。 ・小学校の校内研については1学期の前半の公開授業の日程を把握するのが遅かった。今年度は、松崎中学校の研究会にも参加することができ、中学校教育への理解や幼児教育とのつながりについて、学ぶことができた。	・今後も園務日程を立てる際に、見通しをもって話し合いを位置づけると共に、話し合ったことがすぐに環境の再構成に行かせるように環境構成の時間をセッテ取るようにする。 ・保育室の環境の見合いについても、園務日程を立てる際に、その日のスケジュールの見通しを持って日時を設定する。 ・小学校の研究担当との連携を図り、1学期の前半から校内研究の日程を把握し、参加できるようにする。 ・中学校の研究会への参加を積極的にに行い、継続して幼児教育とのつながりを学んでいく。	・子ども主体に遊び込むことができるような環境構成が継続されて行われている。 ・子どもの事を丁寧に把握していることがよくわかった。 ・幼小連携にとても積極的に取り組んでいることがよくわかった。	
	インクルーシブ教育の推進と充実	○個に応じた援助を計画、実施し、共に育ち合う保育を実践する。 ・特別支援対象児に対し、個別指導計画を作成し、保護者と情報共有し、一貫した支援を行う。 ・特別支援対象児だけでなく、すべての子どもにとってわかりやすいユニバーサルな保育を全職員で実施する。 ・子どもの成長・発達についての情報を保護者に発信する。 ・必要に応じて、巡回相談や他の専門機関など、外部機関との連携を図る。	・子どもの実態を把握して、個別指導計画を前後期で作成し、保護者に開示、面談を行い、家庭と連携して支援する。 ・保護者アンケートの中で、「幼稚園は、個々の発達に応じた教育を行い、共に育ち合えるようにしている」の回答の結果が90%以上になる。 ・学期に一回、園内掲示や配信により、特別支援教育について発信する。 ・特別支援コーディネーターを中心に、外部機関と連携を図り、子どもにとって適切な支援についての情報を得て、職員間で共有し、実践する。	B ・学年会議などを通じて子どもの実態を把握し、個別指導計画を前後期で作成し、保護者に開示、面談を行い、家庭と連携して支援することができた。 ・保護者アンケートの結果、94%の肯定的な回答を得、目標を達成することができた。 ・学期に一回、園内掲示や配信で子どもの発達や特別支援教育について発信することで園全体の保護者に関心をもってもらうことができた。 ・伊丹特別支援学校のコンサルテーションを利用したり、園内研に伊丹特別支援学校の先生を講師として招聘することで専門的な指導を受け、支援につなげることができた。	・個々の発達、特性に応じての支援・援助についての研修を深め、実践していく。また、特別支援対象児だけでなく、全ての子どもについて一人一人を大切にしたりわかりやすい保育を全職員で実践していく。 ・職員会議では毎回支援の必要な子どもについて話す機会を設け、職員全員で子どもの様子、支援について共通理解していく。 ・保護者に情報発信する内容について、保護者や子どもの実態に応じて検討していく。 ・今後も子どもの様子に応じて適時、巡回相談やコンサルテーションなど外部機関との連携の機会を設け、より専門的な知識に基づいた支援につなげていく。	・発達に関する発信はとてもよい。今後も特別支援教育に対する理解についての情報共有を行い、インクルーシブ教育をさらに進めていって欲しい。 ・どの子もよい表情で遊びに取り組んでいる。	
豊かな心と健やかな体の育成	豊かな心を育む道徳教育の推進	○自尊心の育成や思いやる気持ちを育む保育を実践する。 ・日々の保育の中で一人一人を十分に認め、自分のよさ、友達によさに気づき、互いに思いやりをもって接することができるような保育を実践する。 ・子どもの内面を読み取り、安心して自己発揮できるような保育を実践する。 ・動植物の飼育、栽培を通して命の大切さに気づき、愛情深く、思いやりの気持ちを育む。 ・教師自身の道徳性を高め、研修や啓発誌を通し人権意識を高めていく。 ・研修・人権啓発を通して教師が学ぶ機会をもち人権意識を高めていく。 ・参観と人権研修を同日にして保護者への人権啓発を行う。	・保護者アンケートの中の「子どもは自分を大切にし、他を思いやる気持ちをもつことができるようになってきている」の回答が90%以上になる。 ・子どものありのままの姿を受け止めることで自尊心を育み、相手の気持ちに気づいたり自分の行動を振り返る機会を作る。 ・子どもと生き物の飼育をしたり、栽培を通して命の大切さに気づけるような保育を実践する。 ・物の大切さを知らせ丁寧に扱うことを実践できるようにする。 ・自園での保護者研修会や教師間で各種人権に関わる資料を供覧し自らの気づきを実践に活かす。	A ・保護者アンケートの中の「子どもは、自分を大切にし、他を思いやる気持ちをもつことができるようになってきている」が97%の肯定的な回答になり、目標を達成することができた。 ・子どもありのままの姿を受け止め、教師間で子どもの読み取りを共有する等して子どもが自己肯定感を育むことに繋がった。 ・動植物に関わりやすい環境を作り、栽培や動物の世話などを通して命の大切さに気づくようになってきた。また、友達に対しても思いやる気持ちももてるような保育を進め、物の扱いも丁寧に出来るように関わってきた。 ・「差別や偏見に気づき自分自身を見つめる」というテーマのもと自園において保護者研修会や各種人権に関わる資料を回覧し、自らの気づきを実践に生かした。	・目標は達成したが、今後も日々の保育や生活の中で一人一人の子どもに寄り添い、自己肯定感を高める保育の工夫を行っていく。 ・教師が一人一人の子ども良さを認めるように、教師間での連携をもち子どもと関わる。今後も定期的に研修を行い、人権感覚を磨いていく。 ・子どもにとって身近な動植物との関わりをもてるように環境を整え、命の大切さを感じる事が出来るような保育を進めていく。 ・保護者研修会を参観日と同日にしたことで多くの保護者が学びの機会をもてた。今後も保護者と教師が同じテーマのもと研修を重ねていけるようにしていく。	・子どもの人権を尊重しながらどのように指導、支援していくのかが重要と改めて思う。 ・子ども達が身近に生物に触れる場を設定している環境がよい。	
	健康教育の充実(健やかな体づくり)	○基本的な生活習慣を確立し、自らの健康について関心をもてるようにする。 ・基本的生活習慣や熱中症など自らの健康に関心をもつことができるようなほけんのはなしの時間を設ける。 ・長期休暇では、早寝・早起きを意識し、生活習慣を整えるきっかけになるようなけんこうカレンダーを作成する。 ・ほけんだよりやけんこうカレンダーなどを通して、保護者啓発を図る。	・保護者アンケートの中で、「子どもは手洗いうがいなど自分で健康を守るための行動が出来るようになってきている」の回答の結果が85%以上になる。 ・月1回発達段階に応じたほけんのはなしを実施し、内容を玄関前やホームページに掲載する。 ・日々の保育の中で意識して手洗いうがいなど丁寧にすることができるよう、掲示物などを工夫する。 ・月1回ほけんだよりを発行し、夏休みや冬休みはけんこうカレンダーを実践することで、家庭と連携しながら子どもの健康への関心を高めていく。	A ・保護者アンケートの結果から、肯定的な回答が100%となり、目標達成した。 ・毎月1回、発達段階や幼児の実態に応じたほけんのはなしをすることで、「今日は何の話?」と興味を持って聞いている様子から、子ども達が自らの健康を意識できてきていると思う。 ・ほけんのはなしの内容をタイムリーに発信することや、写真を添えて掲載することで、保護者にも内容が伝わり、家庭で話をするきっかけになっていると考える。 ・けんこうカレンダーでは、夏休みの早寝・早起きを意識することが出来たという結果であり、今後も家庭と連携して健康意識を高めるためにけんこうカレンダーは有意義であると考え継続していきたい。 ・日頃の取り組みをまとめて保健大会で発表が出来た。	・興味をもって聞けるように、分かりやすいほけんのはなしや、掲示物の工夫、保育の中での声掛けなどを引き続き行い、基本的生活習慣が身につくように支えていく。 ・ほけんのはなしのタイムリーな発信や、ほけんだより・けんこうカレンダーを通して保護者啓発に努め、家庭と連携して、子ども達の自立を支えていく。 ・保育の中で意識して基本的生活習慣ができるように、掲示物等も引き続き見直していく。 ・保健指導が、より園全体の取り組みとなるよう、職員同士の連携を強化していく。	・子ども自身が健康に関心をもてるような保育をすすめることで保護者の理解がすすんだと感じる。 ・早寝早起きはとても重要、小学校と連動して同じ方向性で啓発していくとよいでは。	
開かれた園づくり	園情報の積極的な発信	○園の情報発信を工夫し、園教育の理解を推進する。 ・参観日、自由参観日の前には、これまでの保育の様子と共に見てほしい視点をわかりやすく伝える。 ・各学期に一度のクラスだよりを通して、子どもの育ちや学びを啓発する。 ・掲示板に各クラスの保育写真を掲示したり、Google classroomや新システムicucoの動画配信機能を活用したりし、リアルタイムに保育を保護者に啓発できるようにする。 ・各クラスの保育写真だけではなく、特別支援や異年齢等の視点からも保護者に伝えたいことを啓発できるように活用する。 ・新システムicucoを情報の発信源として使用し、保護者にとって身近なものになるようにする。 ・ホームページを通して、園の様子を発信する。	・保護者アンケートの中で、「動画配信、保育の写真掲示(ドキュメンテーション)、ホームページ等を通じて、教育方針や活動内容を知っている。」等の回答の結果が90%以上になる。 ・クラスだよりを通して、保育の中で大切にしていることや見てほしい視点、学びや育ち等を具体的に伝える。 ・2週に一度、ドキュメンテーション(保育の写真掲示)を行う。また、ホームページにて更新する。 ・各クラス日々の保育の様子を月3回以上動画を配信する。 ・Google classroomからicucoへの移行を円滑に行い、活用していく。	A ・保護者アンケートで肯定的な回答は94%であり目標を達成した。 ・参観日前には必ずクラス便りを見て欲しい視点について配信して具体的に知らせることができた。また、学期に1回には学期ごとの育ちをクラスだよりを通して伝えることができたことも成果である。 ・ドキュメンテーションとホームページ更新は計画通り実行することができた。 ・特別支援の観点からのドキュメンテーションも各学期ごとに作成し配信した。 ・各クラスだけでなく、運動会等行事の際には異年齢の関わり視点からもドキュメンテーションを作成したり、配信したりした。多い月には月合計40回以上配信し、タイムリーに子どもの様子を知らせることができた。 ・icucoへの移行の際には、不具合もあったが保護者に説明したり対応したりできた。また、動画が15秒から7秒になったが、より伝わるように工夫した。	・引き続き動画配信、ドキュメンテーション、ホームページ等を通じて保護者への情報発信に努めていく。 ・今後も動画配信、ドキュメンテーションをうまく活用し組み合わせることで保育内容が伝わるように工夫していく。 ・保護者アンケートでは動画の秒数が短くてわかりにくいとの声もあったので、こちらの意図が伝わるよう、わかりやすく注釈をつけるなどさらに工夫していく。 ・動画配信した翌日には、「見てくれましたか?」と声を掛ける等して保護者に見てもらった誘いかけをし、保護者とICTをつなげる。	・園全体で活動の様子を常時発信していくことはよいこと。特に動画配信は保護者にとってはうれしい事だと思う。職員の努力が感じられる。 ・あらゆるツールにより情報発信に努めておられることは、保護者や地域にとってもよいこと。	

○学校関係者評価総括
子ども一人一人を大切に教育をしていることがよく伝わってきた。今後もいけじり幼稚園のよさを発信しながら、保育の質の向上に努めてほしい

○次年度に向けた重点的な改善点
子どもの主体性を大切にしながら、一人一人に応じた丁寧な保育の実践を積み重ね、更なる質の向上を図っていく。